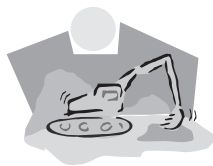


## 建設紀行



## 被災地東北の復旧・復興のために

熊谷 貴広

東日本大震災の災厄に、私たちは自然の脅威をあらためて認識させられた。それから、はやくも1年が過ぎた。

そのような時、東北から約800km離れた、富士山のすそ野、静岡県富士宮市朝霧高原にある、標高900mの職業訓練法人・全国建設産業教育訓練協会、富士教育訓練センターでは、東北から来た訓練生が寒さと雪の中で、「俺たちの街は俺たちの手で再生するんだ!」と頑張っていた。彼らは、自分の手で建設機械を操り、まだ残っている瓦礫の山を整理し、そこに道路を作り、街を作り、再びそこへ人びとが戻ってくるよう、自分たちの手で東北を再生したいという熱い思いを持ち、12日間の「被災離職者技能訓練コース」を受講していた。

私は、機械土工の専門家として富士教育訓練センターに講師として招かれ、「是非、被災した方々にあなたの技術を伝えてほしい」との依頼を受け、富士山に見守られながら訓練コースの担当、建設機械の基礎、応用施工技術を皆さんとともに学び、『ものづくりは人作りから』という原点に立ち返り、「機械土工とはなにか」について講習をしている。

使用する建設機械はホイールローダ、ブルドーザ、パワーショベルである。土質や土量変化率、機械の構造や機能、最新機能等、建設機械の基礎的な施工方法を座学とし、応用施工技術では、ホイールローダ、ブルドーザ、パワーショベルでの作業方法やコツ、盛り土の方法、締め固めによる転圧方法や機械と現場の安全、レーザー受光器、回転レーザー発信器を使った溝掘り掘削や整地、敷き均しを行っている。また、施工

品質と施工スピードを高め、より安全を確保しつつ、人材確保が困難な現場でも単身で施工できる、『情報化施工』の基礎を身につけてもらっている。

このセンターでは最新の技術を教育することによって東北の再生に拍車をかけ、一人ひとりが将来、建設技術者として自立できるよう、短期間で内容の充実した訓練を行っている。

訓練生の一人である19歳の青年は、初回パワーショベルによる基本施工で溝掘り掘削を行い、練習をしたがなかなか成果がでず、苦戦しているようだった。そこで、「いい便利な機械がありますよ」とその青年に情報化施工のことを説明した。原理や仕組みを教え、「今、国土交通省が情報化施工という新技術を使い施工を進めていますよ!」と伝えて機械をセットし、実際に施工してみると、「こんなに便利で仕事のスピードも上がり、品質も向上して、いい機械だ」と応えてくれた。その青年は、自分で受光器、発信器を設定し、溝掘りに何度もチャレンジしていた。さらに、回転レーザーとレーザー受光器を使い掘削深さの算出や地山の切り出しや盛り土の高さなどの割り出しを学習した。

東北の離職者の方々が建設機械のプロとして自信と夢をもって再び地元の再生に挑戦することは、東北の復旧・復興に、最も有効な戦力になると考えられる。

## 【お問い合わせ先】

職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センター：0544-52-0968

静岡県経済産業部就業支援局職業能力開発課：0542-21-2821

静岡県立沼津技術専門校：0559-25-1071

JCMA



写真—1 回転レーザーと受光器による情報化施工の実習



## 【筆者紹介】

熊谷 貴広 (くまがい たかひろ)  
 (株)熊谷興産  
 取締役社長